

問4 次の(ア)～(カ)の問いに答えなさい。

(ア) 次のAさんとBさんの二人の会話文を読んで、あとの問いに答えなさい。

Aさん：部活動の後輩が練習メニューの作成に手こずっていたんだけど、「情けは人のためならず」と思って手助けをしなかったんだ。

Bさん：待って。その使い方は誤っているかもしれないよ。次の新聞記事を見て。

～情けは人のためならず～

「フードバンクの日」に当たる11月23日、withnewsで記事を配信すると、多くの感想が寄せられました。「『貧困』という言葉は自分には無縁とと思っていた」「社会保障を受けるのは『恥』じゃない」。中には「人を使い捨てにする労働環境こそ貧しさの原因では」といった、社会情勢を見つめ直す内容も。それぞれ、貧困を身近な問題として受け止めている印象を持ちました。

様々な理由から、家族を十分に食べさせられなくなってしまう。誰にでもそんな状況に陥る可能性があります。支えを必要とする立場に追い込まれた時、他者からの厳しいまなざしが、生きづらさにつながって欲しいとは思いません。誰かを助けることは、自身を救うことでもある。

(2018年12月1日「朝日新聞」から。一部表記を改めたところがある。)

この記事では「情けは人のためならず」を「あ」という意味で使っているね。日本の古典芸能である能に、*「思ひ知らずや世の中の、情は人のためならず。われ人のためつらければ、必ず身にも報ふなり」というセリフがあって、「あ」の意味と似ている。つまり、この意味が古くから使われているものなんだよ。

Aさん：なるほど。どうして僕は勘違いしていたんだろう。

Bさん：「なら」の解釈の仕方が原因だよ。「なら」は活用語だから、「なれ」などに形が変わるんだ。たとえば、「なれ」が使われている言葉には、「後は野となれ山となれ」や「人こそ人の鏡なれ」などがある。

Aさん：なるほど。「情けは人のためならず」の「なら」が「後は野となれ山となれ」の「なれ」と同じ種類だとすると、「い」という意味になる。一方、「人こそ人の鏡なれ」の「なれ」と同じ種類だとすると、「う」という意味になる。

Bさん：その通り。「人こそ人の鏡なれ」の「なれ」は古い言葉なので、それを知らない人が、「後は野となれ山となれ」の「なれ」と同じように解釈して、「い」の意味だと思ってしまうんだ。実は諺の中には「転がる石には苔は生えない(A rolling stone gathers no moss.)」のように、異なる2つの意味をもつ諺もある。

Aさん：たしか正反対の2つの意味をもつんだよね？

Bさん：うん。「転がる石には苔は生えない」は、ギリシア語やラテン語に由来する古い英語の諺で、もともとは「え」において、「職業や住居を変えてばかりいる人は、結局、地位も財産も築けない」という否定的な意味だった。ところが「え」人の一部が17世紀から「お」大陸に移住して植民地を建設し、さらに18世紀後半に独立戦争を起こして独立を達成すると、西部開拓などに取り組むうちに、この諺を「活発な活動をしている人は時代に取り残されることがない」という肯定的な意味で用いるようになった。今ではどちらの意味も正しいとされている。この場合、苔をよいものと考えれば留まったほうがよく、よくないものと考えれば動いたほうがよいことになる。

Aさん：なるほど。言葉というのは様々な要因のもと意味が変化するから、柔軟な視点が必要かもしれないね。

*「新編日本古典文学全集(59)謡曲集」から。一部表記を改めたところがある。

(i) に入る言葉を、新聞記事の中から 20 字以上 25 字以内で探し、**はじめの3字**を書きなさい。ただし、句読点も1字として数えること。

(ii) —— 線部に関して、次の①～③の言葉に含まれる「なり」「なる」の用法が、「後は野となれ山となれ」と「人こそ人の鏡なれ」の「なれ」のどちらの意味になるかを考え、グループ分けをしたものとして最も適するものを、あとの1～8の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- ①「時は金なり」 ②「朱に交われれば赤くなる」 ③「鶏口となるも牛後となるなかれ」

	「後は野となれ山となれ」	「人こそ人の鏡なれ」
1	なし	① ② ③
2	①	② ③
3	②	① ③
4	③	① ②
5	① ②	③
6	① ③	②
7	② ③	①
8	① ② ③	なし

(iii) , には次のX～Zのいずれかが入る。あてはまるものの組み合わせとして正しいものを、あとの1～6の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

X：情けをかけるのはその人のためでない

Y：情けをかけるならばその人のためでなければならない

Z：情けをかけるとその人のためにならない

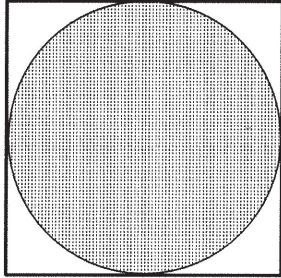
1. い：X う：Y 2. い：X う：Z
 3. い：Y う：X 4. い：Y う：Z
 5. い：Z う：X 6. い：Z う：Y

(iv) , に入る語句として最も適するものを、次の1～5の中からそれぞれ一つずつ選び、それらの番号を答えなさい。

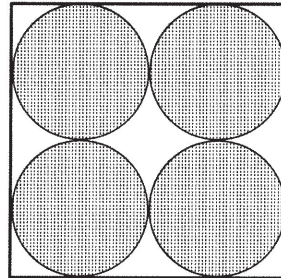
1. アメリカ 2. インド 3. スペイン 4. イギリス 5. オーストラリア

(イ) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

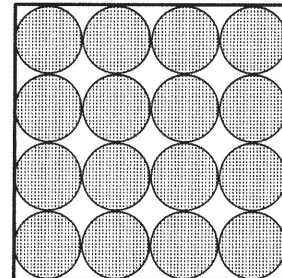
図aは、正方形に円を内接させた図である。図bは4個、図cは16個の同一の円が、図aと同じ正方形の中に並んでいる。それぞれの円は、正方形または円と4点で接している。



図a



図b



図c

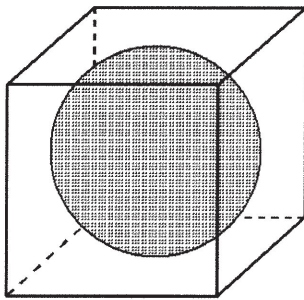
正方形から円を除いた部分(白い部分)全体をすき間と呼ぶことにする。ここではすき間の面積について考えよう。

(i) 図a, 図b, 図cのすき間の面積について述べた文章として最も適するものを、次の1~4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

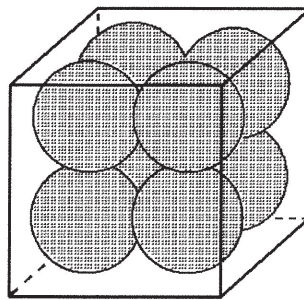
1. 図aのすき間の面積が最も大きい。
2. 図bのすき間の面積が最も大きい。
3. 図cのすき間の面積が最も大きい。
4. 図a, 図b, 図cのすき間の面積はすべて等しい。

(ii) 図Aは、立方体に球を内接させた図である。図Bは8個、図Cは27個の同一の球が、図Aと同じ立方体の中に並んでいる。それぞれの球は、立方体または球と6点で接している。

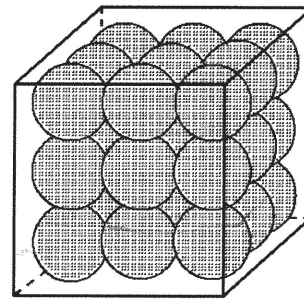
図Bの立方体をその $\frac{1}{4}$ の高さで底面に平行に切断すると、図bと同じ断面が現れる。



図A



図B



図C

図A, 図B, 図Cの立方体を $\frac{1}{4}$ の高さで底面に平行に切断したときに現れる断面について、そのすき間の面積をそれぞれ S_A , S_B , S_C としたとき、その大小関係として最も適するものを、次の1~8の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|
| 1. $S_A < S_B < S_C$ | 2. $S_A < S_C < S_B$ | 3. $S_B < S_A < S_C$ |
| 4. $S_B < S_C < S_A$ | 5. $S_C < S_A < S_B$ | 6. $S_C < S_B < S_A$ |
| 7. $S_B < S_A = S_C$ | 8. $S_A = S_C < S_B$ | |

(ウ) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

総当たり戦（すべてのチームと1回ずつ試合をする方式）による試合結果を記録するときに対戦表Ⅰのような表を用いることがある。

ここでは、勝ちを「○」、引き分けを「▲」、負けを「×」という記号で表している。対戦表Ⅰを見ると、AはBに勝ち、Cと引き分けのため、1勝1分の結果となったことがわかる。

対戦表Ⅰ

	A	B	C	結果	総勝ち点数	順位
A		○	▲	1勝1分	4	1
B	×		○	1勝1敗	3	2
C	▲	×		1分1敗	1	3

さらに、「勝ちが3点」、「引き分けは1点」、「負けは0点」のように、対戦結果により点数（勝ち点）を与え、総勝ち点数が多い順に順位を決めており、対戦表Ⅰでは、Aは1勝1分なので、勝ち点は3 + 1 = 4点となり、Aが1位となっている。

以下、すべての問いは、この表記、この勝ち点のルールで、総勝ち点数を計算している。

(i) 総勝ち点数が判明している対戦表Ⅱがある。この対戦表からわかるCの対戦結果を○▲×の記号で記入しなさい。

対戦表Ⅱ

	A	B	C	D	結果	総勝ち点数	順位
A						9	1
B						6	2
C						3	3
D						0	4

(ii) 総勝ち点数が判明している対戦表Ⅲがある。この対戦表からわかるCの対戦結果を○▲×の記号で記入しなさい。

対戦表Ⅲ

	A	B	C	D	E	結果	総勝ち点数	順位
A							12	1
B							6	2
C							5	3
D							4	4
E							1	5

(iii) 対戦結果が判明している対戦表Ⅳがある。この対戦表は、A, B, C, D, Eの5チームによる総当たり戦の結果を表している。

次の結果をもとに、1位～5位のチームを考え、A～Eで答えなさい。

対戦表Ⅳ

						結果	総勝ち点数	順位
		○	○	○	○			1
	×		○	○	▲			2
	×	×		○	▲			3
	×	×	×		○			4
	×	▲	▲	×				5

結果

- ・ AとBは引き分けた。
- ・ EはDに勝った。
- ・ Dは順位がBより上で、Cより下である。
- ・ AとBの総勝ち点数の差は、AとCの総勝ち点数の差と等しい。